

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 82

2009年12月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

いずみ緑道入口

増田 09.10.20

群馬県

碓氷峠く坂本宿を訪ねる！

チーム街路樹20

坂根

輝一

市外の評価の高い街の景観を観て歩き、我が街の景観を評価誘導する「眼」を養う。こうして企画された研修活動も六回目をむかえる。今回のテーマは、「群馬県碓氷峠 坂本宿」。歴史を語る、ぜひ永く守っていききたい景観として顕彰された場である。

十月二十日（火）午前八時半、参加者十六名に市緑化推進課の柳下さんを加え、市提供のバスに乗り、まず群馬県邑楽郡大泉町の「いずみ緑道」を目指す。常磐道・東京外環道・東北道を経て、館林ICを降り、ここから半時間余りで大泉町に至る。

「いずみ緑道」は全長四キロ、コブシ・ツバキ等百種三万本が道を彩る遊歩道である。四季の吐息が普段に聞こえる明るい林道の風情であるが、噴水や水路、彫刻等もしつらえてあり、公園風な空間もあり、町民の日々行きかいつどう道となっている。この道は、「新日本街路樹百景」に選出されている。まさに緑道のさががけとなったひとつで、植栽幅も広く樹冠は自由に空を覆い、秋の木漏れ日が道に水玉模様を描いている。わずか三十余年の間に廃線跡地をかく整備した行政の妙が垣間見える。

この緑道（歩道部分）に添って車道がある。この道は、ハナミズキ通りと称され、並走する緑道があつてのことか、日本の道百選に選ばれている。

一行は町役場の庭を借りて昼食をとる。コンビニ調達の弁当をひろげ見廻せば、この役場も広い森に包まれた安堵の空間で、池や滝や木陰や座る場も置かれ、園庭のしつらえになっている。

午後一時。一行は再びバスに乗り富岡に移動する。世界遺産暫定リストに記載された「富岡製糸場」を見学する。「文明開化」という希望と労苦の間で築かれた、当時世界最大規模であつた煉瓦造りの遺構の美しさにあらためて驚嘆する。

群馬県安中市松井田町坂本。ここにある「くつろぎの郷」が私達の一夜の宿となる。かつて宿場町として栄えた地の一角であるが、今その痕跡はない。宿はフィンランド風ログハウス三棟。空をくぐる裏妙義山塊の豪快な稜線が眺望される。夕食は屋外でのバーベキュー。冷えた外気の中で、焼く、食べる、飲むの戦いが、暖かな歓談のなかで繰り広げられる。天然温泉「峠の湯」に浸り、つづく歓談の宴の内に、就寝する。



コテージの朝 増田 09.10.21

東京外環道・常磐道と幾つもの関所ならぬ料金所をくぐり、駕籠ならぬバスに揺られて、歴史の道を想う研修会であつた。

夜が明ける。朝八時、碓氷峠界隈を散策する。ここは時に取り残された地であろうか？それが私の最初の疑問であった。近代の鉄道が敷設され、やがて廃線となり、今遊歩道となった碓氷峠の鉄道の跡地・アプトの道や坂本宿を歩いてみて、ああこれが道なのだ、なにか真新しさを感じてしまう。過去とか現在とかの言葉に封じ込めてしまふ無意識な概念に驚く。時は止まらないが物も止まらない。時と共にいつも今である。坂本宿の本陣・脇本陣・旅籠は、今ここに歴然とあるし、建物としての機能をなお維持している。これを遺跡・標本と考えるには、違和感を覚える。酒屋脇本陣は今も公民館として起用されている。廃線となった煉瓦造りの4連アーチ式鉄道橋、通称めがね橋の美しさ、その新鮮さには息を飲む。昼食はおぎのやの「峠の釜めし」。近くの鉄道文化村にしばし休息を求め、帰路につく。松井田妙義ICから高速道に入り、上信越道・関越道・

うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告



あやめ受託事業報告

佐野 滋

今年も後一月あまりで終わろうとしています。私は今年四月からこのアヤマ事業に参加させていただき八ヶ月になります。これまでの感想、現在の状況について知る範囲で紹介させていただきます。このアヤマ園は現在十四人で週二回主に草取り、株分け等を行っています。春先から夏にかけては雑草との戦いで、除草している後から勢いよくまた生えてくる次第です。しかしその雑草の中に私たちのメンバーには山野草に詳しい人がいて、大変珍しい野草を教えてくださいながら作業しています。また、湿地帯、沼にはザリガニ、食用力エルなど、野鳥では鴨、白鳥など飛来し自然が満喫できるのがアヤマ園です。

さて今年のアヤマ園ですが周辺の桜満開ごろから見頃です。存知かと思いますが今年のアジサイが見事に咲き、さらにアヤマ、花菖蒲が最盛期を迎えました。今年は全体的には今ひとつでしたが、黄色の花菖蒲が見事に咲き楽しんでいただきました。また秋には一、四〇〇本の彼岸花が咲き大変好評でした。来年は二、〇〇〇本に増える予定で他、菜の花の種類もまき、来年の春が楽しみです。

このアヤマ園の近くには牛久城跡、城中貝塚、小川芋銭邸など観るところがたくさんあり自然と歴史を楽しんでください。特に最近牛久に在住された方にお勧めです。首都圏では開発が進み自然環境が破壊されつつあると聞いています。JR牛久駅から一時間あまりで都心というところで自然がこれだけ残っているのは大変珍しいのではないかと思います。是非大切にしていきたいと思えます。

さて私たちのメンバーにはアヤマは勿論、昆虫類、山野草に詳しい人がいます。是非とも見かけましたらご質問、声をかけていただければ、わかる範囲で

答えさせて頂きます。お待ちしております。

最後にアヤマ園の周辺を見渡しますと、すでに紅葉が見られこのアヤマ園内のあらゆる植物の成長が止まりつつあり来年に備えているように感じます。そんな中で十一月始めの作業日に花菖蒲が二本この時期に見事に咲いていました。周りの植物は枯れつつある中でもない。美しいと感じた。次年度です。来年に向けて頑張りましょう。



季節外れの花菖蒲が咲く中での作業 佐藤 09.11.09



里山自然観察隊

平塚 芳雄

今年度の「植物ガイド」活動を振り返って

十一月十四日(土)に実施を予定していた「植物ガイド」は雨天中止。今回は「晩秋の草木の花・実を見る」をテーマに城中地区でこの季節に花を咲かせ実を付けている草木を主に観察する予定でした。今年度最後の「植物ガイド」でしたので中止は残念。

里山自然観察隊の主たる活動は年四回開催の「植物ガイド」と年五回開催の「植物観察会」です。「植物ガイド」は一般市民の参加を募り、四月、六月、九月、十一月の第二土曜日にその季節に合った

テーマで毎年実施してきました。今年度は三回だけの実施となりましたが、延べ五十四名が参加、内里山の会会員外の方は延べ二十一名。

「植物ガイド」は毎回講師を務めている渡辺泰さんがテーマに応じた資料を作成して下さり、その資料を参考にしながら草木の学習と観察を行う活動です。四月は「牛久のスマレの花を見る」というテーマで牛久市内で見られる在来、十一種、国内由来逸出二種、海外由来逸出三種(日本には約五十種、世界では四百種以上あるという)のスマレを求めて城中地区集落内、刈谷地区住宅街、新地地区の山林・畑道等を歩き、十二種のスマレを確認。蟻がスマレの種子を散布することも知る。

六月のテーマは「里山：森と林は郷土の植物のすみか」。植物の生育環境が安定している所ほど在来種が多く、絶滅危惧・希少種が生えており、里山の中心である森や林はとても貴重なところであることを「牛久自然観察の森」近辺での植物観察で体験。約百十種の草木を確認。

九月のテーマは「植物は土地の水分環境に適応した種類が生える」。水辺環境と植物の帯状分布(陸生植物 挺水植物 水生植物 浮葉及び沈水植物)を資料で学び、柏田地区の湿地で湿地植物の観察を実施。植物約百種を確認。

十一月は雨天中止でしたが、このように四季折々の植物観察を通じて自然の美しさ不思議さ大切さを実感する一方、心配なのはこれら植物の生育環境が狭まり悪化していることです。市内の山林は減少し、管理不十分な山林が増加、粗大ゴミの捨て場の増加で湿地が減少、湿地植物の生育環境は大変厳しい状況に。

「植物ガイド」が現状を知り、里山に愛着を持つ人々を増やし、自然環境保全へ発展させていければと願っています。



ありが種を運ぶ?スマレの花列 平塚 09.04.09



雑木林応援隊

郡司 忠男

「ある活動日のこと」

四月には年間予定表を作って、第二第四日曜日のリーダー・炊事当番を決めています。いつも昼食にはその日の担当者が、し好を凝らした味噌汁を作ります。その特徴は具たくさんなのと、料理のペテラの主婦がいるので、料理が上手なのと差し入れや何かで、おむすびはいりません。私は、いつもたき火のオキで焼きいもを作ります。これも大層腹の足しになります。

食材代は、会費からたまに五〇〇円を集めて、無くなったらまた集めるという方式です。

会員は、得意分野を持つている人が多くて、Hさんの奥様はツルかごと草木染めの先生です。Kさんは、植物や昆虫が大好きで、いつもわからないことがあると教えてもらいます。春のキノコはあまり食

べられるのが出来ないとか、竹林の整備をしていてキリギリスに似たクダマキモドキという虫を見つけて喜んで写真を撮ったり。

Iさんは園芸と建設関係が得意で竹垣作りではイボ結びを私はいつも忘れてしまつて、その都度何回でも聞いてしまいます。また上等な出来ではありませんせんが、堀抜井戸を作つたのもIさんです。Iさんはアズマネザサを切つて、日当たりの良くなつたところにキツネノカミソリの花を見つけ、大喜びしていました。本当に自然が好きなのですね。

Tさんは水道の排水を竹を何本も埋めることによつて自然吸入式にしました。

上水道工事は皆でやつたのですが、便所の手洗いの井戸水ポンプの水道管を分岐して作りました。地中配管で仮に作つたものが、十年近くも利用されているとは思いませんでした。今では水垢があるので生では飲めませんが誤つて飲んでしまわないか心配です。

また、ムジナの里は、観察の森とは関係ありませんが荒れた里山をキレイにして伐採した木や竹を炭焼きやキノコ作り利用しようとしていきます。

木は伐採すると萌芽更新して、また新しい森になります。

竹林は竹を間引いて林床に木漏れ日が当たると、良い



里山のキノコ・クリタケ

タケノコがたくさん取れるようになります。

春のタケノコの時期は皆でタケノコ堀をやりませす。持ち切れない程のおみやげとなります。私は、昔の人を見習い落ち葉を集めて堆肥を作り、農薬を使わない循環型農業をやっています。仕事は日の出から日没までとし、早寝・早起きをモットーにしています。

私は、会員歴は長いのですがお天気屋なので気が向いた日しか参加しません。十数年前に雑木林の会ができてまもなく入会しました。



親子農業体験講座

金海 裕美

里芋とサツマイモの収穫祭

五月に植え付けた里芋とサツマイモの収穫を子供達と一緒にやりました。夏の蒸し暑い日にする草刈りはとても大変で、雨が降つた翌日には里芋の葉の上にたまつた雨水で全身びしょ濡れになりながら刈りました。大きな葉の間に入り腰をかがめたままするのでとても苦労しました。しかし、虫がいつぱいで子供達にはとても楽しい所でした。

サツマイモのツルを切らないようにかき分けながら刈るのも時間がかかりました。そんな苦労があつたので収穫はとても待ち遠しく楽しみにしていました。

さていよいよ里芋の収穫です。まずは里芋の葉を切り落とすことに。大きく育つた葉は簡単に切り落とすことができず、子供達にはとても魅力的な葉のようでそれぞれ自分の気に入った葉を頭の上に差しながら雨が降らないかと空を仰いでみたりしていました。残念ながら雨は降りませんでした。

次に根をシャベルで掘ると親芋の周りに子芋がついていました。子供達とお店で売っているのと同じだ！と感動しながら、沢山の子芋と大きな親芋が



収穫祭の日おいしい里芋・さつまいもがとれました 09.10.10

採れました。

子芋は煮ても煮崩れることがないので、とてもやわらかくねっとりしていました。親芋を食べられることを知らなかつたのでどんな味がするのか食べてみるとほっこりしてすごく美味しく感じました。

サツマイモは九月に試し掘りをした時、とても小さく食べられない状態だったので大きくなつてくるか不安でしたがとても大きなイモが出てきました。しかし喜びも束の間で、子供達と土まみれになりながら探しますが、すべて掘り起こした結果は大きな物は少なく小さな物がほとんどでした。大人気のサツマイモがあまり採れなくて残念でしたが、小さくても味は絶品でとても甘く、ホクホクしていました。

収穫が終わつてから里芋汁と焼き芋を頂きました。皆で育てた採れたての里芋は今までに食べたことのない味で絶品でした。最後に来年の種イモ用に里芋を畑に穴を掘り藁に

包んで来年もおいしく出来ますようにと、願いと一緒で埋めました。今年は夏が寒く楽しめなかったのでさみしく感じていましたが、その分この収穫祭で秋を楽しむことが出来ました。



巨木リサーチ事業報告

小田 洋

管理グループの活動経過

二〇〇九年度の巨木管理グループの作業は次のような日程で行い、十一月一日(日)で終了しましたので、今年の活動を振り返りかえってみます。

一、まず、四月十五日(水)と四月二十一日(火)に対象木の事前調査を一・二回目とも各グループのほとんど全員参加でおこないました。

二、五月二十三日(土)予定の牛久町八坂神社の「市民の木 十三エノキ」の管理は八坂神社の氏子がおこなう事になりました。

三、管理日と管理巨木

五月二十三日(土)に城中町得月院駐車場の「ケヤキ」の周りにまとわりついているキツタを所有者の了解を得て切断し、根元から手の届く程度の高さまで取り払いました。さらに下草も刈り取りました。その結果、巨木の見栄えが大変良くなりました。参加人数八名。

六月二十七日(土)に久野町鹿島神社飛地の「市民の木 十五スタジイ」の小枝除去と下草刈りをおこないました。参加人数八名。

七月五日(日)に上柏田日枝神社で「市民の木 六スタジイ」の小枝除去とその周囲のマダケ除去及び「同No.七スギ」の周りのマダケの除去をおこないました。これは大変な大仕事でした。参加人員八名。

九月二十六日(土)に島田町永沼氏の氏神である三峰神社の「市民の木 二十七スタジイ」の周

りのマダケと近くのアオキの除去をおこないました。ついで、奥原町の願名寺の「スタジイ」二本の小枝切りと下草除去をおこないました。参加人員七名。

十月二十四日(土)に柏田町長泉寺の「ソメイヨシノ」の小枝切りとツタの除去をおこないました。参加人員五名。

十一月一日(日)に下根町愛宕神社で「ヤマザクラ」の小枝除去と、中根町鹿嶋神社で「カヤ」の小枝除去をおこないました。参加人数八名。

四、今回、巨木の管理をして気づいたことは、十数年ほど前、「市民の木」を定めたときからだいぶ時間が経っていて、巨木のある場所に人手がかけられていないようで、かなり巨木の周りがむさ苦しい、暗いということでありました。また、「市民の木」の案内板が汚れていて人目につきにくくなっていました。

一部は綺麗にしませんが、今後不断に手をかけていかねばと思っていました。今年予定



下根町愛宕神社のヤマザクラ管理 渡辺 09.11.01



会員研修視察報告

石神 良三

「三富地域を訪ねて」

去る十一月十日、坂代表をはじめ十六名の会員と市役所関係職員三名の参加により、歴史学習の教材としても有名な、「三富新田」を中心とする三富地域の、人と自然が共生した循環型農業の歴史と現状についての研修視察を実施しました。

当日は、三富地域農業戦略プランの立案や具体的な活動推進の核となっている、埼玉県川越農林振興センターの坂所長(坂代表の弟さん)をはじめ、次長、担当部・課長の皆さんがご同行くだされ、ご案内とご指導を頂きました。

三富地域とは、埼玉県西部にある川越市、所沢市、狭山市、ふじみ野市、三好町の四市一町にまたがる約三千二百町歩の広大な畑作地域です。

三富新田の誕生

元禄七年(一六九四年)武蔵国川越藩主となった柳沢吉保は、同年周辺農民の採草地であった菅原の新田開発に着手。二年後の元禄九年(一六九六年)の検地により、上富九十一屋敷、中富四十屋敷、下富四十九屋敷、合計一八〇屋敷の新しい村が誕生した。総面積約千四百町歩。

三富新田の地割・・・その知恵と工夫 三芳町立上富小学校屋上からの長大な地割遺跡の眺望に、参加者一同から驚きの声。三百余年前の姿を目前に感動あるのみ。

一戸あたりの区画は、間口四十間、奥行き三百七十五間の短冊状で、道側から順に屋敷地(林)、耕地、雑木林で構成され、今もその形態を多く残している。雑木林はコナラ、エゴ、アカマツなどで防風林、堆肥(落ち葉)、燃料(薪)の供給源として農業とくらしを支えてきた。雑木林をもセツトにした地割の英知に驚かされる。「三富」の命名に託した豊かな村づくりへの願いがこのような

地割を生んだのであるう。

現在は埼玉県指定の「三富開拓地割遺跡」として景観の保全も図られている。

武蔵野の平地林を活用した環境保全型（循環型）農業

の三富地域を、「守り」「育て」「引き継ぐ」ための主な活動組織

- ・埼玉県川越農林振興センター（活動の核となる行政機関）
- ・三富地域農業振興協議会（行政、農業者、地域住民、地権者、民間企業等の代表者の会）
- ・三富地域ネットワーク「さんとめねっと」（農業者と地域・都市住民との「協働」の促進者の会）
- ・さやま緑と里の会（狭山地域に残る平地林の地権者）

地権者である中田前会長さんには、活動拠点の平地林で現場をご案内頂きました。

最後の視察先は、上富新田の農家伊藤氏宅にてさつまいも生産ほ場、茶畑を見学し全日程を終了した。

一日を通して、三富新田に関わる人々の生き生きとした姿がとても印象的であった。

最後に、ご多用の中をご案内ご指導を頂きました皆様方に、心よりお礼申し上げ、報告といたします。



上富小学校屋上から見た地割遺跡の眺望 佐藤 09.11.10

「うしくの里山フォトコンテスト」入賞作品発表 実行委員会事務局 阿部幸浩

十一月五日、写真家の高橋氏（二科会常任理事）、池邊牛久市長ほか七名の審査委員による審査を行った結果、計三十六点の入賞作品が選考されました。受賞された皆様を紹介いたします（敬称略）。

優秀賞：中島淑子（審査委員長賞）・上條みどり（牛久市長賞）・今泉涼子（牛久市観光協会会長賞）
入選：下山邦夫・小南恵子・井上里枝・加藤元廣・岩下五郎・簡晶子・藤川弥優・小川詩織・林田麻希

佳作：三枝司・井上正浩・水谷孝・中村光雄・佐藤加代子・内田智子・渡邊浩美・島田武志・飯島彩・石森博也・服部佑香・山口聖矢
牛久自然観察の森特別賞（園長賞）：小南正志・立野杏奈

牛久自然観察の森特別賞（レンジャー賞）：
三枝司・山田均・鈴木正美・中村光雄・荒井有加・

羽賀正雄・山口千鶴・中西悠貴・乾桜楽



審査委員による審査の様子

十二月五日、市中央生涯学習センターにおいて開催される「うしく・くらし・環境まつり」に入賞作品を展示します。是非ご覧ください。

運営委員会からのお知らせ

坂弘毅

一・うしく・くらし・環境まつり2009
十二月五日（土）

牛久市中央生涯学習センターにおいて開催されます。これからのエコライフを実践して地球環境に少しでも役立てたいという思いから、あらゆる視点からエコを考えてみました。うしく里山の会も森と協働でブースを設けます。特にスタードームは圧巻です。皆様のご来場をお待ちしております。

二・今年も茨城県自然博物館の移動博物館が
観察の森にやってきました

十二月十一日（金）～十八日（金）まで

移動博物館のボランティアを募集中です。

詳しくは牛久自然観察の森だよりを参照してください。



三・平成二十二年度会費納入の件

十二月発行の会報さとやまに、平成二十二年度の会費振り込みのお知らせを同封しますので、手続きのほどお願いいたします。

記事訂正

先月号に誤記がありました。訂正しお詫びいたします。
（トピックス） 地桶金蓮 地浦金蓮



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦 齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

十二月は四日（金）と二十日（日）の実施となります。今回の活動場所は第二駐車場付近の杉林です。元気な森づくりを行いましょ。なお、新年一月の活動日は一月十七日（日）のみとなります。こちらもどつぞご参加下さい。

活動日時 十二月四日（金）午前九時～

十一時半

二十日（日）午後一時～三時半

集合場所 ネイチャーセンター一階倉庫前

（予約不要/雨天・強風時は中止 会ホームページに情報掲載）

持ち物 長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物

（長袖、長ズボン）

刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りません。

（問合せ先） 029-874-0066 担当：石神



牛久自然観察の森だより

齊藤 孝

移動博物館サポートボランティア募集

今年も茨城県自然博物館から移動博物館がやってきます。

・牛久市内小学校の授業活用日

十二月十一日（金）～十八日（金）までの平日

・一般公開日

十二月十二日（土）～十三日（日）となります。

この期間中、昨年同様サポートボランティアを募集いたします。ボランティア向けの内覧会は十二月十日（木）の夕方を予定しています。募集の詳細は折込のチラシをご覧ください。ご協力、ご参加をお待ちしています。

平成22年度レンジャー募集要綱配布

来年度の観察の森レンジャーの公募を行ないます。概要は左記となります。

募集対象 募集要項に挙げられた資格を満たす

満二十歳以上三十五歳未満の方

任期 平成二十二年四月一日～平成二十三年三月

三十一日（一年間）募集人員 若干名

待遇 特定非営利活動法人うしく里山の会就業規

則および賃金規定による（給与等詳細は要

項に記載）

募集要項配布期間 十二月一日（火）～十二月

二十七日（日）（開園日のみ）

配布場所 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

受付（及び牛久自然観察の森ホームページ）

応募書類提出期間 平成二十二年一月五日（火）～

一月十一日（祝日）

（問合せ）牛久自然観察の森 担当：齊藤

今月の古木・希少木 No.32 マテバシイ

ブナ科マテバシイ属の高さ十五mほどになる常緑高木です。別名はサツマジイ、マタジイとよばれていいます。元来は九州南部と南西諸島の自生種でしたが、現在は本州の関東南部と紀伊半島、四国、九州北部に野生化しています。牛久市内では島田町のN氏の庭に数十年を経た古木があり、牛久駅西口の街路樹などでも見られます。

樹皮はふつう灰黒色で、縦に細い白い条があります。葉は互生し、らせん状につき、枝先に集まる傾向があります。葉身は長さ九～二十六cm、幅三～八cmの倒披針状楕円形、先端は短くとがり基部はくさび形、全縁で厚い革質をしています。花は雌雄同株で、六月に開花します。雄花序は長さ五～九cmで新枝の葉腋に数個ついて斜上します。雌花序は長さ五～九cm、新枝の上部の葉腋から斜上します。果実は堅果で、写真のように長楕円形、

長さは十五～二十五mmで、翌年の秋に褐色に熟します。下部は径十四～十六mmの椀状の殻斗（カク

ト）に包まれており、多数の鱗片状の殻斗片が瓦重ね状に並んでいるのが特徴です。堅果は渋みが

なく生食でき、焼

いたり茹でたりす

るとさらに美味に

なり、九州では酒

を造るところもあ

るそうです。公園

樹、街路樹、防風・

防火樹として使わ

れています。



マテバシイの葉と果実

09.10.28

（村尾重信）

12月の里山カレンダー

活動日は天候等都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
		1 森の畑 9:30畑	2	3 アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	4	5 親子農業体験講座 9:00観察舎 うしくらし環境 まつり 10:00 中央生涯学習C
6 巨木リサーチ2(特) 8:30ボランティアC前	7 (休園日) アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	8 森の畑 13:30畑	9	10 アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P エコアップ作戦 9:00NC	11	12 里山自然観察隊 9:00森P (会報等原稿×切)
13 雑木林応援隊 9:00ムジナ	14 (休園日) アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	15 森の畑 13:30畑	16	17 アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	18	19
20 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC エコアップ作戦 13:00NC	21 (休園日) アヤマ園(受) 7:50アヤマ園P	22 森の畑 13:30畑	23 (天皇誕生日) 雑木林応援隊 9:00炭小屋	24 (休園日)	25	26 チ-ム'街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会)
27 会報発送 13:00NC	28 (休園日)	29 (休園日)	30 (休園日)	31 (休園日)		

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場奥の畑,
コジュケイ:観察の森内コジュケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎,
アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (特):特別事業, (休園日):観察の森休園日, ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター

編集後記

この会報が皆さんに届く頃は十二月。もう今年も後がありません。十二月は師走。その由来は、坊主(師には僧侶の意味もある)が走り回るほど忙しくなるといわれているが、本来は伊勢神宮や各地崇敬社の御師達が家庭を巡ることからであるとのこと(ウイキペディア)。

だいぶ前のことですがこんな話を耳にしました。それは、「病気になるっても病人になるな。貧乏になっても貧乏人になるな」ということです。人間は生身の体ですから病気になることは仕方が無い。しかし病気のためにくよくよして心まで弱く(病人)になつてしまわないように。また世の中、金持ちは多くいますが、心の寂しい人(貧乏人)も少なくありません。金は無く貧乏でもいいから心の豊かな人であつてほしい。このような意味でした。先日、アヤマ園で「里山で活動している人は皆元気だね」と誰かが話していました。自然豊かな太陽の下で、夏はほどよく日焼けし冬はほかほかと暖かさを感じる。そして緑(森林)のフィトンチッド(樹木等が発散する化学物質 微生物の活動を制御する作用をもつ)をたくさん浴びて病人でも貧乏人でもなく心身ともに健康そのものだと思えます。いつまでも笑顔を忘れないでほしいものです。

森林、森と林の違いとはインターネットなどで調べましたが良くわかりませんでした。

(森) 樹木等がうっそうと繁っている様子。自然に生えて人の手が加えられていない。熟語がない。

(林) 樹木等がまとまって生えている場所。人の手が加えられている。雑木林・杉林・桧林・山林・原始林・自然林等、熟語がある。

皆さんはどう思いますか。

佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2010年1月号の発送は12月27日(日)午後1時からです。お手伝いいただける方はネーチャーセンターまでお越しください。よろしく願いいたします。